

令和3年度～令和5年度

科学研究費助成事業基盤研究C（一般）（課題番号21K10220）

小児の偏食改善を目的とした多職種連携型口腔機能改善アプローチの開発

## 調査報告書

### 子どもの食の問題に関するアンケート

#### 研究代表者

田村文誉 日本歯科大学口腔リハビリテーション科教授、博士（歯学）

#### 研究分担者

高橋 智 日本大学文理学部教育学科教授・東京学芸大学名誉教授、博士（特別支援教育）

田部絢子 金沢大学人間社会研究域准教授、博士（特別支援教育）

菊谷 武 日本歯科大学口腔リハビリテーション科教授、博士（歯学）

水上美樹 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック歯科衛生士、博士（歯学）

#### 研究協力者

山田裕之 日本歯科大学口腔リハビリテーション科講師、博士（歯学）

礒田友子 日本歯科大学口腔リハビリテーション科助教、博士（歯学）

駒形悠佳 日本歯科大学口腔リハビリテーション科臨床助手

作田妙子 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック歯科衛生士

2023年7月

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

# 子どもの食の問題に関するアンケート

## 目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| 調査の目的                  | 2  |
| 調査の方法                  | 2  |
| 結果                     |    |
| 出生から離乳完了期における食の問題      | 3  |
| 離乳完了後から就学前における食の問題     | 5  |
| 小学校入学から高校までの時期における食の問題 | 11 |
| 考察                     |    |
| 出生から離乳完了期における食の問題      | 19 |
| 離乳完了後から就学前における食の問題     | 20 |
| 小学校入学から高校までの時期における食の問題 | 21 |
| 学会発表                   | 23 |
| 資料：調査票                 | 24 |

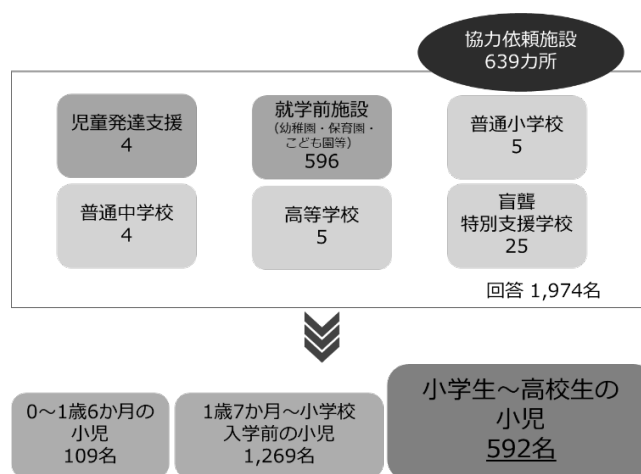
本研究は日本歯科大学生命歯学部倫理審査委員会（NDU-T2021-65）の承認を得て行われた。

## 調査の目的

小児の食行動の問題のなかでも、偏食は保護者の最大の関心事であり、育児ストレスの誘因となり得る。これまで、偏食の考え方や指導法には一定の基準がなく、時として誤った対応が繰り返されてきた。特に、学校給食の場面では食事の強要に繋がり、児童の不登校の原因になる場合もあることから、従来型の偏食改善のアプローチ法を見直す必要がある。小児期の偏食については、口腔機能の問題でもあり、それは平成 30 年度に保険医療に収載された口腔機能発達不全症の症状にも含まれる。また、口腔機能発達不全症の一部の対象者には発達障害児が含まれると推察されるが、その有症率は明らかでない。そこで本調査では、0～18歳未満までの小児を対象とし、当事者または保護者による口腔機能の困りごとに関するアンケートを行い、実態把握することを目的とした。

## 調査の方法

研究者の関係する、東京都・京都府・広島県・沖縄県の保育園、幼稚園、学校等の 639 施設にアンケートの回答への協力を求め、本調査の主旨に賛同し、承諾の得られた 0 歳から 18 歳までの小児の保護者または本人を対象とした。



アンケートの内容は、研究者がこれまで行なった小児の食の問題に関する調査内容（文献入れる）をもとにし、「口腔機能発達不全症」のチェックリスト（日本歯科医学会の URL 入れる）で挙げられている項目を含めたものを作成した。協力施設に対し、本調査の主旨と内容を説明した用紙を配布し、説明用紙に示した QR コードまたは URL から、回答者個人が web 上のアンケートに直接アクセスしてもらい、回答する方法をとった。未就学児の場合は保護者に回答を求めた。小学生以上の場合は本人、または、本人に確認しながら保護者が回答する方法を依頼した。

調査結果について、要因の分析を行なうための統計解析には IBM spss ver. 25 を用い、検

討を行なった。

## 調査期間と回答状況

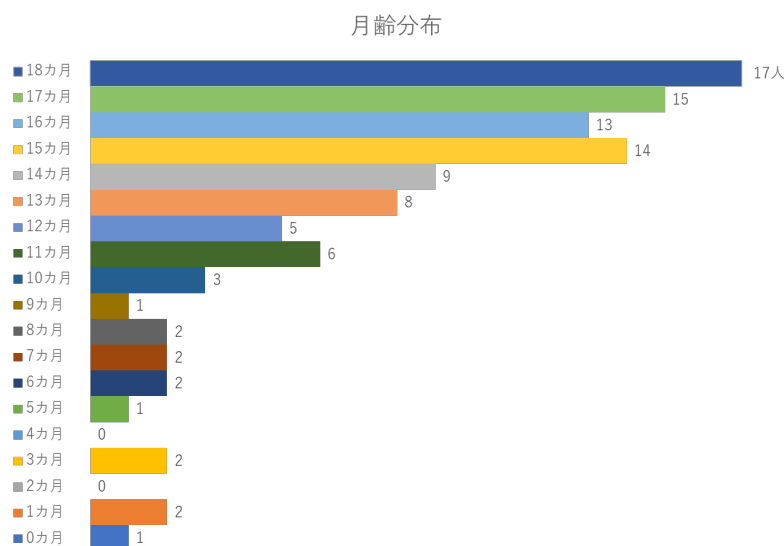
調査期間は2021年7月～2022年2月28日である。有効回答は1974件であった。内訳は、哺乳期から離乳完了期群（0歳～1歳半）が103件、離乳完了後から就学前群（1歳半～小学校入学前）が1269件、学童期群（小学生以上高校生まで）592件である。年齢群毎に検討した結果を以下に示す。

## 結果

### 1) 出生から離乳完了期における食の問題（哺乳期から離乳完了期群）

#### （1）対象者の背景

回答者数は103名であり、回答者は母親が97名、94%で、対象児の平均月齢は13.8プラスマイナス4.2カ月、月齢分布はグラフに示すとおりである。



性別は男児54名、52.4%、女児49名、47.6%であった。きょうだいがいないのは58名、56.3%であり、第一子は58名、56.3%であった。74名、71.8%が保育所に通っており、家庭保育は12名、11.6%であった。健康上の問題により継続して医師の治療を受けている者は15名、14.6%みられ、その内容は、泌尿器や鼻風邪、発疹、アトピー性皮膚炎、等であった。

## (2) 生活リズムと栄養・食事

平均的な起床時間は7時台が最も多く48名、46.6%、次いで6時台46名、44.7%であり、8時台以降が5名、4.9%みられた。平均的な就寝時間は21時台が最も多く47名、45.6%であり、次いで20時台39名、37.9%であった。22時台も9名、8.7%みられた。1週間単位でみて、子どもの寝る時間が十分かどうかについては、十分だと思うが49名、47.6%、やや十分だと思うが31名、30.1%であり、やや不足していると不足しているを合わせて23名、22.3%であった。哺乳については、混合が44名、42.7%と最も多く、次いで母乳のみ42名、40.8%であった。育児用ミルクのみは17名、16.5%であった。

離乳食を開始している者は99名で、それらのうち離乳食の開始時期は、生後5ヵ月が57名、57.6%で最も多く、次いで6ヵ月が31名、31.3%であった。現在の食形態は、完了食～幼児食が50名、50.5%、普通食が29名、29.3%、後期食が14名、14.1%と続いた。離乳食を食べている場合、朝食を食べているのは95名、96.0%であった。朝食を食べている95名において、起床から朝食までの時間は、15～30分が49名、51.6%と最も多く、次いで15分未満が34名、35.8%であった。起床から30分以上の余裕のある者は12名、12.6%であった。95名において、朝食時の食欲は、とてもあるが74名、77.9%、ややあるが17名、17.8%、ほとんどないが4名、4.2%であった。

## (3) 消化機能について

排便頻度は、毎日が83名、80.6%、週5～6回が11名10.7%であり、週3～4回が8名、7.8%、週1～2回が1名、1.0%みられた。

## (4) 栄養摂取の心配事

哺乳で心配なことがあると回答したのは11名、10.7%で、全体として心配事がある者は少なかった。11名の回答の内訳は、早く歯が生えていて飲ませると痛いのが1名、9.1%、舌の裏の帯が短いのが2名、18.2%、乳首をしっかりと口に含むことが出来ないのが1名、9.1%、授乳時間が長すぎるのが1名、9.1%、授乳時間が短すぎるのが4名、36.4%、哺乳量や授乳回数が多すぎるのが1名、9.1%、哺乳量や授乳回数が少なすぎるのが1名、9.1%、であった。離乳食で心配なことがあると回答したのは23名、22.3%であった。

その他気になることがあると回答したのは22名、21.4%で、22名の内訳は、体重が増えない、痩せているのが6名、27.3%、口の周りや口の中を触られるととても嫌がるのが7名、31.8%、があげられ、その他には、あまり嘔まずに飲み込むことが多い、食べすぎ、などの食べ方についてや、歯の生え方やかみ合わせについて、また、歯磨きを嫌がる、が回答されていた。

偏食に関することとして、子どもがどうしても食べられない場合に周囲にわがままと言われたりして困ったことがあるのは、3名、2.9%みられた。子どもの食事に関して保護者として苦慮していることは、家族の食事と分けて献立を考えたり作ったりしなければならず大

変だ、が 41 名、39.8%、外食に連れていきにくい (連れていきたくない)、が 29 名、28.2% と多かった。一方、いずれも当てはまらないが 35 名、34.0%みられた。

(5) 子どもの食べることに関する困りごと

「相談先がある」は、73 名、70.9%であった。「講演会や研修会に参加したことがある」は 8 名 7.8%、「専門職に相談したい」は、11 名 10.7%であった。「幼稚園や保育所等の先生に知っておいてほしい、理解してほしい・対応してほしいことがある」は、10 名 9.7%、「幼稚園や保育所等の栄養士や調理員に知っておいてほしい、理解してほしい・対応してほしいことがある」は、8 名 7.8%であった。「家族の誰かにも共通した傾向だと思うか」については、非常に思うが 14 名 13.6%、少し思うが 23 名 22.3%、思わないが 46 名 44.7%、わからないが 20 名 19.4%であった。

(6) 口腔過敏と離乳食で心配な事との関連

口腔機能発達不全症 (完了前) のチェックリストの一つである口腔過敏に該当する「口の周りや口の中を触られるととても嫌がる」ことの有無と、離乳食で心配なことの有無について  $\chi^2$  二乗検定を用いて検討した。口腔過敏がある小児の方が、離乳食について心配事がある保護者の割合が有意に多い傾向であった ( $p<0.01$ )。

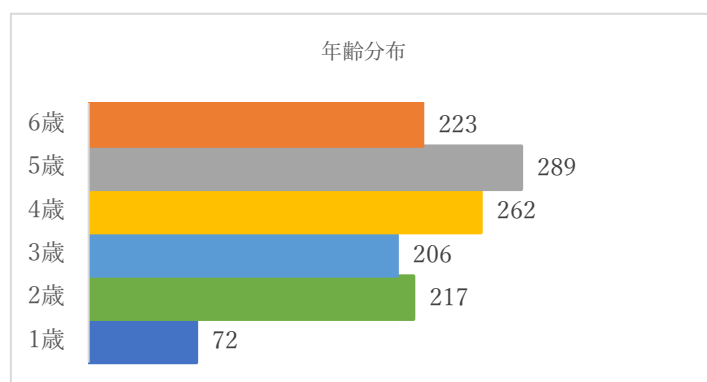
|            |    | 離乳食で心配なこと |    | 合計 |
|------------|----|-----------|----|----|
|            |    | ある        | ない |    |
| 口腔過敏か心理的拒否 | なし | 19名       | 74 | 93 |
|            | あり | 4         | 1  | 5  |
| 合計         |    | 23        | 75 | 98 |

Fisher の直接法  $p<0.01$

2) 離乳完了後から就学前における食の問題 (離乳完了後から就学前群)

(1) 対象者の背景

有効回答者数は 1269 名であり、うち母親が 1197 名、94.3%であった。対象児の平均年齢は 4 歳 4.2±17.8 カ月、年齢分布はグラフに示すとおりである。



性別は男児 654 名、51.5%、女児 615 名、48.5%であった。きょうだいがいないは 436 名、34.4%であり、第一子は 815 名、64.2%であった。日中の生活は、保育所 743 名、58.6%、幼稚園 166 名、13.1%、認定こども園 360 名、28.4%の順で多く、その他は 3 名、0.2%であった（重複あり）。家庭保育は 2 名、0.2%のみであった。病気の既往や障害がない者は 821 名、64.7%であった。発達と身体に既往歴のある者のうち、自閉スペクトラム症 29 名、ADHD12 名、知的能力障害 7 名、その他発達障害 13 名、肢体不自由 1 名であった（重複あり）。健康上の問題により継続して医師の治療を受けている者は 162 名、12.8%であり、アレルギー疾患 135 名、アトピー性皮膚炎 121 名、喘息 98 名が多かった（重複あり）。

## （2）生活リズムと栄養・食事

平均的な起床時間は 5 時台が 13 名、1.0%、6 時台が 452 名、35.6%、7 時台が最も多く 703 名、55.4%、8 時台は 98 名、7.7%、9 時台が 3 名、0.2%であった。平均的な就寝時間は、18 時台 8 名、0.6%、19 時台 19 名、20 時台 174 名、13.7%、21 時台が 715 名、56.3%と最も多く、22 時台 314 名、24.7%、23 時台 36 名、2.8%、24 時台 2 名、0.2%であった。1 週間単位でみて、子どもの寝る時間が十分かどうかについては、十分だと思うが 457 名、36.0%、やや十分だと思うが 363 名、28.6%、やや不足しているが 369 名、29.1%、不足しているが 80 名、6.3%であった。睡眠について、入眠までにとても時間がかかるは 262 名、20.6%、寝かしつけに 2 時間以上かかるは 50 名、3.9%、昼寝をしないが 479 名、37.7%、睡眠時間が不規則で頻回にずれるが 78 名、6.1%、寝ている途中で何度も目が覚めるが 109 名、8.6%、悪夢をみているようだが 39 名、3.1%、夜泣きが多いが 41 名、3.2%、なかなか起きない 217 名、17.1%、寝起きに機嫌が悪い 212 名、16.7%、寝具や寝室の環境がいつも同じでなければならない 47 名、3.7%であった（重複あり）。いずれも当てはまらないは 374 名、29.5%であった。

1 日の歯磨きの回数は、1 回が 544 名、42.9%、2 回が 582 名、45.9%、3 回が 137 名、10.8%、なしが 6 名、0.5%であった。哺乳については、母乳が 637 名、50.2%、育児用ミルクが 110 名、8.7%、混合が 522 名、41.1%であった。

離乳食の開始時期は、現在の食形態については、初期食が 4 名、0.3%、中期食が 4 名、

0.3%、後期食が5名、0.4%、完了食が171名、13.5%、普通食が1165名、91.8%、母乳・ミルクも併用が13名、1.0%、経管栄養のみが2名、0.2%であった（重複あり）。

離乳食の開始時期については忘れてしまったという回答も散見された。明確な数字が得られた回答1219件のうち、生後3カ月が5名、0.4%、19.7%、4カ月が24名、19.7%、5カ月が452名、37.0%、6カ月が549名、43.3%、7カ月が71名、5.8%、8カ月が39名、3.2%、9カ月が8名、0.7%、10カ月が12名、1.9%、11カ月が6名、0.5%、12カ月以降が50名、4.1%みられた。経管栄養で離乳食を全く開始していない者が1名おり、また、離乳食が進まなかった・嫌いで食べなかった2名は、現在は普通食を摂取していた。現在摂取している食形態は、初期食が3名、0.2%、中期食3名、0.2%、後期食4名、0.3%、完了食170名、13.4%、普通食1164名、91.7%、であり、母乳・育児用ミルクが13名、1.0%、うち11名は普通食を摂取していた（重複あり）。経管栄養で経口摂取を全くしていない者は1名、0.1%みられた。

経口摂取している場合、朝食を食べているのは1262名、99.4%であり、そのうち起床時から朝食までに30分以上余裕のある者は101名、8.0%であった。起床時の食欲は、とてもあるが363名、28.8%、ややあるが746名、59.1%、ほとんどないが136名、10.8%、ないが3名、0.2%であった。食欲がない、ほとんどない者では、起床から朝食までの時間が30分未満しかない者が126名と多く、30分以上では13名、であった。朝食にかかる時間は、15分未満が247名、19.6%、15～30分が764名、60.5%、30～45分が215名、17.0%、45～60分が25名、2.0%、60分以上が6名、0.5%であった。昼食について回答のあった1256名中、昼食にかかる時間は15分未満が45名、3.6%、15～30分が776名、61.8%、30～45分が375名、29.9%、45～60分が54名、4.3%、60分以上が6名、0.5%であった。夕食について回答のあった1268名中、夕食にかかる時間は15分未満が22名、1.7%、15～30分が523名、41.2%、30～45分が504名、39.7%、45～60分が170名、13.4%、60分以上が49名、3.9%であった。

経口摂取している1628名中、食事を残すことがあるか、については、よくあるが403名、24.8%、ときどきあるが551名、43.5%、ほとんどないが273名、21.5%であり、ないは41名、3.2%であった。欠食することがあるか、については、よく欠食するが11名、0.9%、ときどき欠食するが153名、12.1%、欠食しないが1104名、87.1%であった。よく欠食する、ときどき欠食する場合、朝食のみを欠食している者が59名、4.7%、昼食のみを欠食している者が19名、1.5%、夕食のみを欠食している者が47名、3.7%、朝食と昼食を欠食している者が6名、0.5%、朝食と夕食が21名、1.7%、昼食と夕食が3名、0.2%、3食とも欠食が6名、0.5%みられた。

### （3）消化機能について

排便頻度は、毎日が587名、46.3%、週5～6回が366名、28.8%であり、週3～4回が246名、19.4%、週1～2回が61名、4.8%みられた。



#### (4) 心身の不調について

現在、健康上の問題により継続して医師の診察を受けている小児は162名(12.8%)であり、その内容の上位は、アレルギー疾患 135名、アトピー性皮膚炎 121名、喘息 98名であった(重複あり)。

心身の不調については、就寝時間が遅い 264名、20.8%、皮膚がかゆい・痛い・腫れる・湿疹 232名、18.3%、集中力に欠ける・気が散りやすい 232名、18.3%、こだわりが強い 227名、17.9%、あきらめが早い 174名、13.7%、朝なかなか起きられない 174名、13.7%、汚れることが嫌い 159名、12.5%、環境の変化が苦手 153名、12.1%、じっとしていることが苦手 152名、12.0%、気にしすぎる傾向がある 144名、11.3%、便の回数が少ない・便秘 142名、11.2%、口が開きがち 141名、11.1%、喘息・気道過敏・鼻炎・各種アレルギー 138名、10.9%、姿勢が崩れがち 134名、10.6%、夜なかなか寝付けない 133名、10.5%、歯きしり・いびき・寝言・寝返りが多い 122名、9.6%、よく噛まない・丸のみ 111名、8.7%、不安・緊張・ストレスが強い 104名、8.2%、の順で多くみられた(重複あり)。

#### (5) 口腔機能について

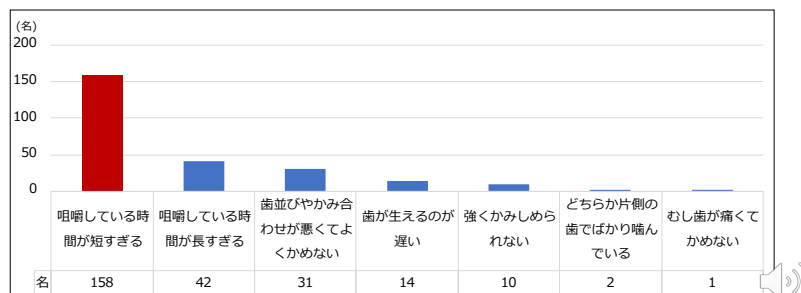
1269名中 876名、69.0%が、口腔機能の心配事があると回答していた。口腔機能発達不全症のチェックリストに準じ、咀嚼機能、嚥下機能、構音機能、食行動の4項目について検討した。

##### ①咀嚼機能

咀嚼機能の心配がある者は266名、21.0%であった。咀嚼で心配している266名の内訳では、咀嚼している時間が短すぎる158名、59.4%で最も多く、次いで咀嚼している時間が長すぎるが42名、15.8%であった(重複あり)。

### 咀嚼(噛むこと)で心配なことはありますか？

n=266名(複数回答)の内訳

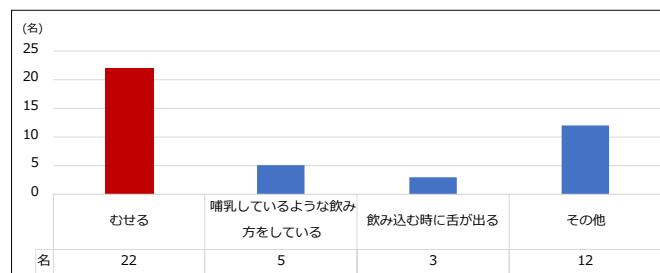


## ②嚥下機能

嚥下機能の心配ある者は 43 名、3.4%であった。嚥下で心配している 43 名の内訳では、むせるが最も多く、22 名、51.2%であった（重複あり）。

### 嚥下（飲み込み方）で心配なことはありますか？

n=43（複数回答）の内訳

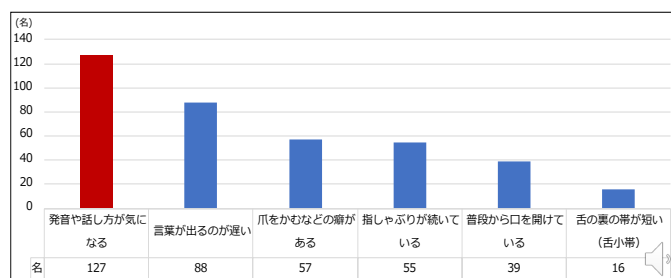


## ③構音機能

構音機能の心配がある者は 285 名、22.4%であった。構音を心配している 285 名の内訳では、発音や話し方が気になるが 127 名、44.6%と最も多く、言葉が出るのが遅いが 88 名、30.9%、爪をかむなどの癖があるが 57 名、20.2%であった（重複あり）。

### 話すこと（構音）で心配なことはありますか？

n=285（複数回答）の内訳

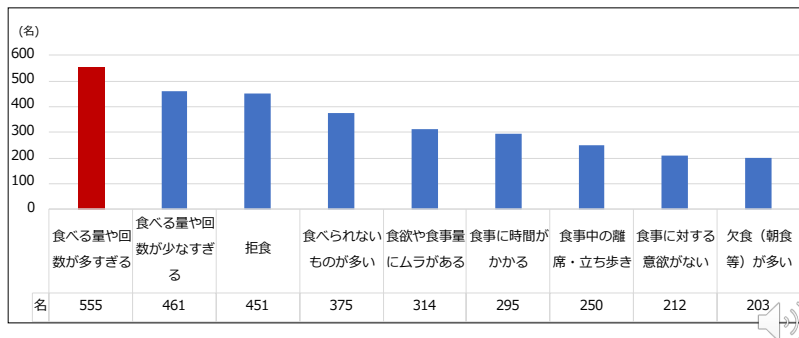


## ④食行動

食行動の心配がある者は、758 名、59.7%であった。食行動で心配している 758 名の内訳で多かったのは、食べる量や回数が多すぎるが 555 名、73.2%、食べる量や回数が少なすぎるが 461 名、60.8%、拒食が 451 名、59.5%、食べられないものが多いが 375 名、49.5%、食欲や食事量にむらがあるが 314 名、41.4%、食事に時間がかかるが 296 名、39.1%であった（重複あり）。

## 食べ方（食行動）で心配なことはありますか？

n=758（複数回答）の内訳 抜粋

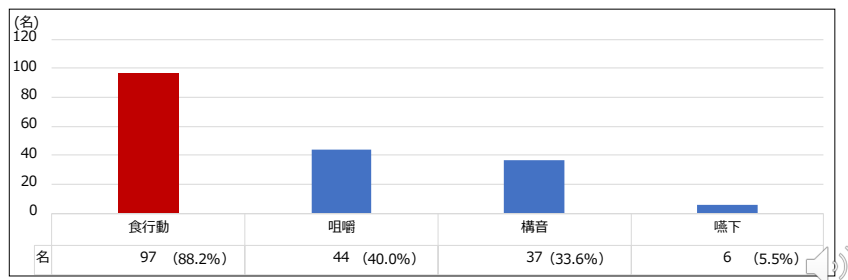


### （6）医療を必要としている者における口腔機能の問題

健康上の問題により継続して医師の診察を受けている小児は 162 名、12.8%であり、口腔機能について心配なことがある小児は 110 名、8.7%みられた。110 名中、食行動の問題が 97 名、88.2%と最も多かった（重複あり）。

### 健康上の問題により 継続して医師の診察を受けている小児 162名

- ✓ 口腔機能について心配なことがある小児 110名 (67.9%)



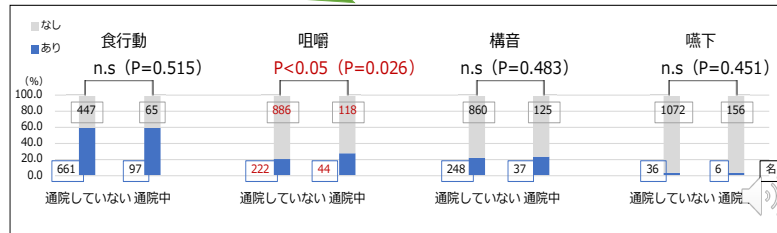
継続して医師の診察を受けて「いる小児」と「いない小児」を対象に口腔機能について心配なことが「あるかない」の割合を比較すると、継続して医師の診察を受けている小児の方が咀嚼について心配している傾向が有意にみられた(p = 0.026)。食行動、構音、嚥下の項目では両者に差は無かったが、食行動については医師の診察が必要か否かにかかわらずその問題を抱えている者の数は多かった。

継続して医師の診察を受けて“いる小児 / いない小児”を対象に  
口腔機能について心配なことの“ある / ない”の割合を比較

方法：クロス表を用いたχ<sup>2</sup>検定 有意水準 P<0.05

口腔機能について心配なことのある全体 n.s (P=0.085) n.s : not significant

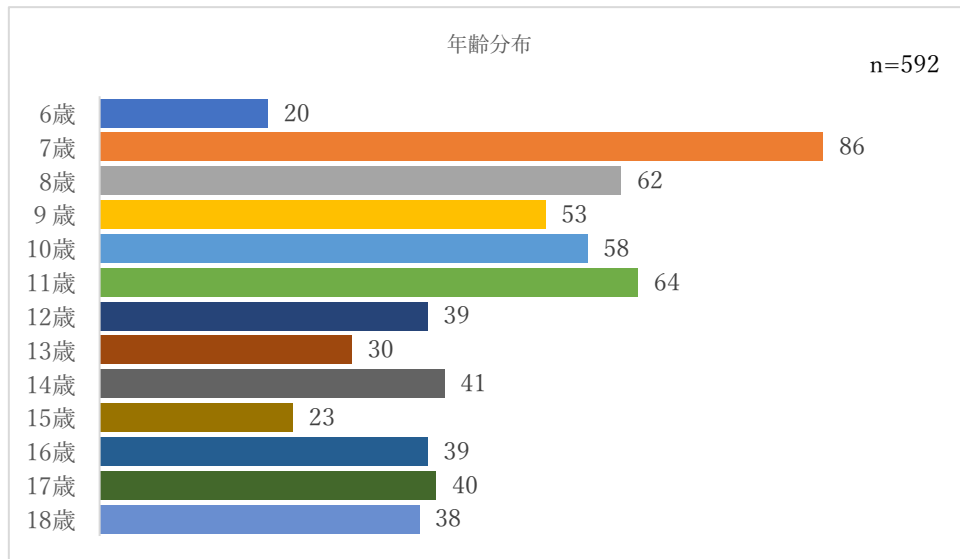
継続して医師の診察を受けて“いる小児”の方が咀嚼について心配している傾向であった



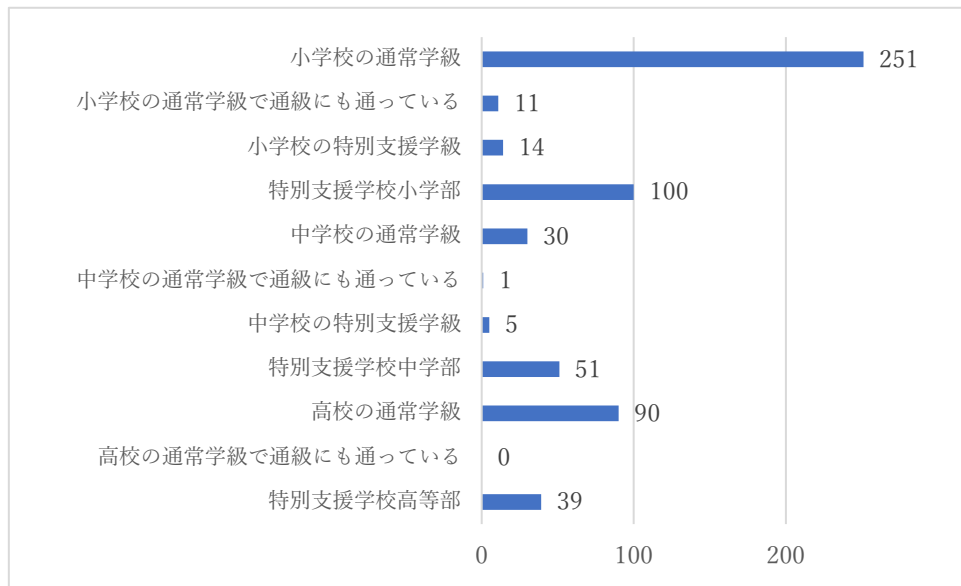
### 3) 小学校入学から高校までの時期における食の問題 (学童期群)

#### (1) 対象者の背景

有効回答者数は 592 名であり、回答者は本人のみが 50 名、8.4%であり、基本的に本人に確認しながら母親が 498 名、84.1%、父親が 40 名、6.8%、その他が 4 名、0.7%であった。平均年齢は、11.4±3.6 歳、分布はグラフに示すとおりである。



性別は、男児 300 名、50.7%、49.3% 女児 292 名であった。きょうだいがいないは 87 名、14.7%であり、第一子は 329 名、55.6%であった。通学先の内訳はグラフに示すとおりで、小学校の通常学級が最も多く 251 名、42.4%、次いで特別支援学校小学部が 100 名、16.9%、高校の通常学級が 90 名、15.2%であった。



病気や障害はないと回答した者は 194 名、32.8%であった。発達と身体に既往歴のある者では、アトピー性皮膚炎が 74 名、12.5%、気管支炎が 83 名、14.0%、食物等のアレルギーが 50 名、8.4%、花粉症が 120 名、20.3%と多かった。また、自閉スペクトラム症 103 名、17.4%、ADHD 33 名、5.6%、知的能力障害 113 名、19.1%、その他発達障害 15 名、21.5%、肢体不自由 26 名、4.4%であった（重複あり）。

## （２）生活リズムと栄養・食事

平均的な起床時間は 4 時台が 2 名、0.3%、5 時台が 36 名、6.1%、6 時台が 417 名、70.4%、7 時台が 132 名、22.3%、8 時台が 3 名、0.5%、9 時台が 1 名、0.2%みられた。平均的な就寝時間は、18 時台が 11 名、1.9%、19 時台が 11 名、1.9%、20 時台が 51 名、8.6%、21 時台が 233 名、39.4%、22 時台が 172 名、29.1%、23 時台が 68 名、11.5%、24 時以降が 46 名、7.8%であった。1 週間単位でみて、寝る時間が十分かどうかについては、十分だと思うが 208 名、35.1%、やや十分だと思うが 252 名、42.6%、やや不足しているが 100 名、16.9%、不足しているが 32 名、5.4%であった。睡眠について、なにかに集中していると寝ることさえ忘れてしまうが 75 名、12.7%、入眠までにとっても時間がかかるが 78 名、13.2%、いったん眠るとなかなか起きられないが 77 名、13.0%、朝起きてから起動するまでにとっても時間がかかるが 82 名、13.9%、睡眠不足の時は体調が悪いが 51 名、8.6%、入眠前や起床後、布団の中でもスマホを使っているが 68 名、11.5%、と多かった（重複あり）。何も訴えが無いのは 1 名、0.2%のみであった。

1 日の歯磨きの回数は、1 回が 55 名、9.3%、2 回が 300 名、50.7%、3 回が 229 名、38.7%、4 回以上が 7 名、1.2%、なしが 1 名、0.2%であった。

現在の食形態は、普通食が 561 名、94.8%であり、普通食とミルクを飲んでいるものが 1 名、0.2%みられた。経管栄養のみは 5 名、0.8%あり、離乳食と併用が 3 名、0.5%みられ

た。完了食が6名、1.0%でそれ以外は離乳食形態を摂取していた。経口摂取している587名中、朝食を食べているのが552名94.0%、そのうち起床から朝食までに30分以上余裕のある者は84名、15.2%であった。起床時の食欲は、とてもあるが223名、40.4%、ややあるが285名、51.6%、ほとんどないが54名、9.8%、ないが4名、0.7%であった。食欲がほとんどない、ないものでは、起床から朝食までの時間が30分未満しかないものは47名、8.5%であった。30分以上は11名、2.0%であった。

食事にかかる時間は、朝食では15分未満が238名、43.1%、15～30分が290名、52.5%、30～45分が45名、8.2%、45～60分が4名、0.7%であった。昼食では、15分未満が81名、14.7%、15～30分が401名、72.6%、30～45分が105名、19.0%、45分以上が5名、0.9%であった。夕食では15分未満が40名、7.2%、15～30分が309名、56.0%、30～45分が200名、36.2%、45分以上が43名、7.8%であった。食事を残すことについては、よくあるが51名、9.2%、ときどきあるが141名、25.5%、ほとんどないが293名、53.1%、ないが107名、19.4%であった。残す食事は、朝食が66名、昼食が39名、夕食が137名であった(重複あり)。欠食については、よく欠食するが8名、1.4%、ときどき欠食するは64名、11.6%、欠食しないが最も多く520名、94.2%であった。欠食する場合、朝食のみ欠食は39名、昼食のみが7名、夕食のみが7名で、さらに朝食と昼食が7名、朝食と夕食が3名、昼食と夕食が4名、3食とも欠食が1名みられた。

### (3) 食に関する困難感

幼児期・小学校期からの食に関する困難感を問うたところ、人の輪の中でどのようにふるまえばいいかわからないため会食は恐ろしいは6名、1.0%、大人数の食事は音や匂いなどの情報があふれて辛いのは9名、1.5%、誰かに見られながら食べることは苦であるは5名、0.8%、いつもと違う順序、違う時間、違う場所で食べることは苦痛であるは11名、1.9%、パン屋、魚売り場など匂いの強い場所では吐き気をもよおすは2名、0.3%、気が付いたらひどくおなかがすいていることがあるは6名、1.0%、食欲の差が激しく、食欲のない時は全然食わず、ある時はとことん食べるは16名、2.7%、ストレスを感じると空腹を全く感じなくなるは6名、1.0%、見るだけで気持ち悪かったり怖い食べ物があるは4名、0.7%、においの強い食品は食べられないは11名、1.9%、魚の小骨は全部外さないといずれのどに引っかかっているように感じるは8名、1.4%、味が混ざるのが嫌なのでおかずをすべて食べてからご飯に移るような食べ方をしてしまうは19名、3.2%、好きになったメニューや食べ物にはかなり固執するは47名、7.9%、箸の使い方が下手であるは最も多く94名、15.9%であった(重複あり)。異常にのどが渇き一日に何リットルも飲み物を飲むと回答した者はみられなかった。回答なしは18名、3.0%であった。

### (4) 消化機能について

お腹が痛くなったり下痢になるのを気にして食べないようにすることがあるか、につい

ては、よくあるが3名、ときどきあるが33名、5.6%、ほとんどないが132名、22.3%、まったくないが424名、71.6%であった。普段の排便頻度は、毎日が309名、52.2%、週に5～6回が130名、22.0%、週に3～4回が100名、16.9%、週に1～2回が35名、5.9%であった。

#### (5) 心身の不調について

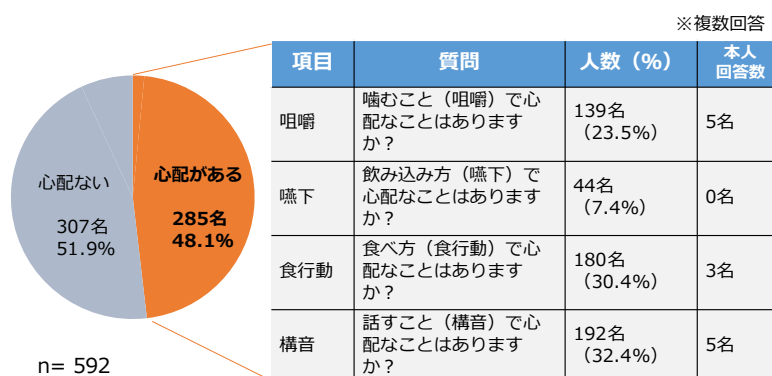
幼児期・小学校期からの心身の不調について、環境の変化が苦手は40名、6.8%、突然の音には非常にストレスを感じるは26名、4.4%、初めてのことや複雑なことになると思考が止まってしまうは35名、5.7%、不安・緊張・ストレスが強いは22名、3.7%、気にしすぎる傾向があるは17名、2.9%、こだわりが強いは35名、5.9%、何もやる気が起きないは1名、0.2%、ストレスが溜まっているは6名1.0%、爪噛みは20名3.4%、パニック・かんしゃくは19名、3.2%、イライラしているは9名、1.5%、汚れることが嫌いは14名、2.4%、集中力に欠ける・気が散りやすいは26名、4.4%、あきらめが早いのは12名、2.0%、イメージすることが苦手は28名、4.7%、学習に困難があるは42名、7.1%、感覚の過敏は22名、3.7%、感覚の低反応（鈍麻・感じにくい）は16名、2.7%、身体の疲れやすさは15名、2.5%、体がだるくなりやすいは7名、1.2%、不定愁訴（なんとなく体調が悪い）は3名、0.5%、風邪をひきやすいは4名0.7%、肩こり・頭痛・腰痛は1名、0.2%、よく頭が痛くなるは1名、0.2%、午前中ぼんやりする、調子が悪いは2名、0.3%、貧血気味であるは1名、0.2%、発熱しやすいは2名、0.3%、吐き気・嘔吐しやすいが1名、0.2%、肥満が15名、2.5%、やせが4名、0.7%、冷え性・寒がり6名、1.0%、顔に吹き出物が出たり肌が荒れることがよくあるが6名、1.0%、生理痛が重いのは1名、0.2%、乗り物酔いしやすいは1名、0.2%、中耳炎・耳下腺炎になりやすいは8名、1.4%、喘息・気道過敏・鼻炎・各種アレルギーは20名、3.4%、皮膚がかゆい・痛い・腫れる・湿疹は14名、2.4%、口内炎・歯茎の腫れは6名、1.0%、歯並びが悪いのは23名、3.9%、舌や頬など口腔内を噛みやすいは2名、0.3%、口が開きがちは27名、4.6%、滑舌が悪いのは20名、3.4%、よく噛まない、丸のみは30名、5.1%、虫歯になりやすいは7名、1.2%、ゲップが多い・しにくいのは6名、1.0%、腹痛・下痢が多いは1名、0.2%、トイレに間に合わないことがあるのは8名、1.4%、おならが少ない・多いは9名、1.5%、便の回数が少ない・便秘は7名、1.2%、おなかに便が充満している感じがあるのは1名、0.2%、排便時に肛門の痛みがあるのは1名、0.2%、便の量が少ないのは1名、0.2%、便が硬くて出にくいのは7名、1.2%、排便によって腹痛やおなかの不快感は和らぐが1名、0.2%、就寝時間が遅いのは9名、1.5%、夜なかなか寝付けられないのは9名、1.5%、中途覚醒が多い・よく眠れないのは8名、1.4%、歯ぎしり・いびき・寝言・寝返りが多いのは16名、2.7%、朝なかなか起きられないのは6名、1.0%、睡眠不足は3名、0.5%、同年齢の人より睡眠時間が長い（昼寝含む）は2名、0.3%、睡眠リズムが安定しないのは3名、0.5%、つまずいて転びやすい、ぶつかりやすいのは9名、1.5%、転んでも手が出ないのは4名、0.7%、スキップやケンケンが苦手は22名、3.7%、じっとしていることが苦手は21

名、3.5%、姿勢が崩れがちは 29 名、4.9%、左右の手足が異なる動きは難しいは 18 名、3.0%、箸や鉛筆の扱いが下手は 35 名、5.9%、手先が不器用は 30 名、0.5%、運動や運動遊びが苦手は 18 名、3.0%、運動不足は 18 名、3.0%であった。回答のない者は 8 名、1.4%であった。

### (6) 口腔機能について

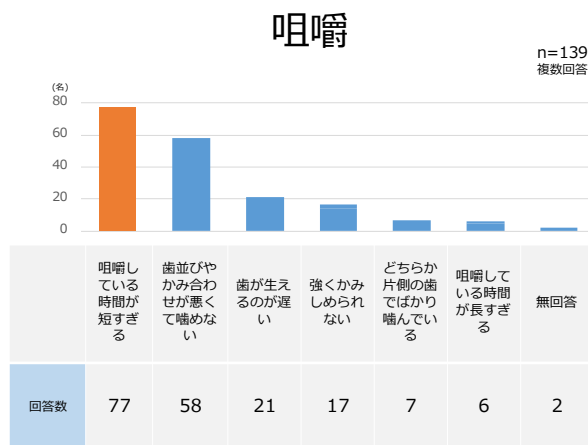
口腔機能について心配があると回答した者は 285 名、48.1%であった、285 名の回答を咀嚼・嚥下・食行動・構音の項目に分け、どこに当てはまるか質問したところ、構音の心配が最も多く、心配ないと回答した者も含めて 592 名中 192 名、32.4%であり、次いで食行動 180 名、30.4%であった。咀嚼は 139 名、23.5%、嚥下は 44 名で、7.4%あった。

口腔機能についてどのようにとらえて（感じて）いるか



#### ①咀嚼について

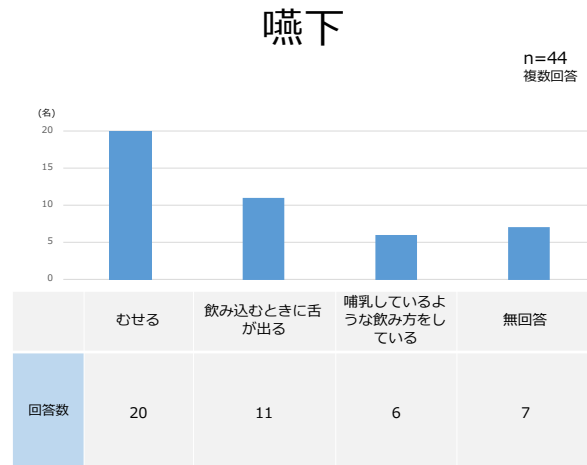
口腔機能に心配がある者のうち、それぞれの項目で、どの症状に当てはまるか質問したところ、咀嚼においては、咀嚼に心配がある 139 名のうち「咀嚼している時間が短すぎる」が最も多く、77 名、55.4%であった。





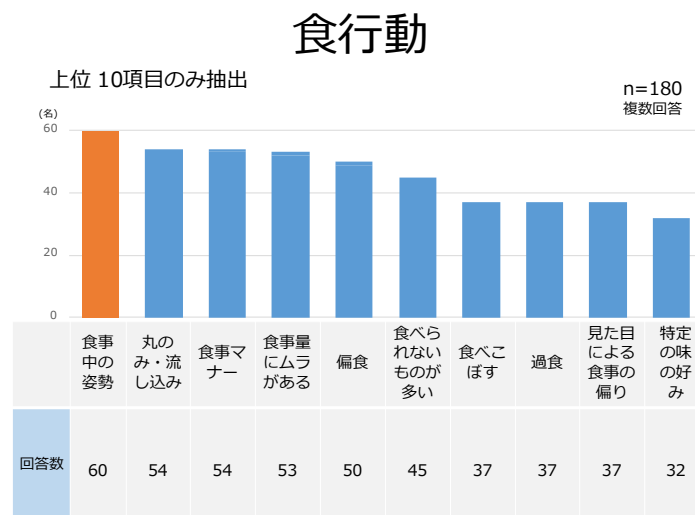
## ②嚥下について

嚥下においては、嚥下に心配がある 44 名のうち、「むせる」が最も多く、20 名、45.5%であった。



## ③食行動について

食行動においては、食行動に心配がある 180 名のうち、「食事の姿勢」が最も多く、60 名、33.3%であった。

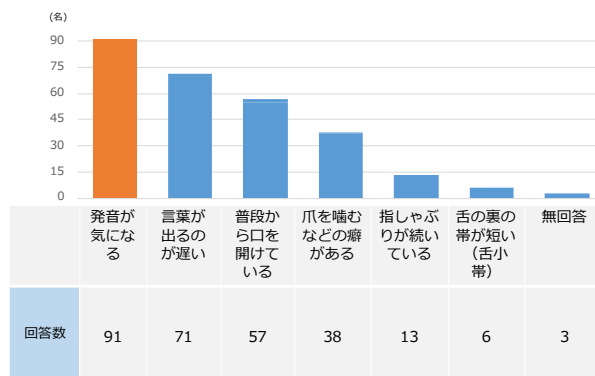


## ④構音について

構音においては、構音に心配がある 192 名のうち、「発音が気になる」が最も多く、91 名、47.4%であった。

## 構音

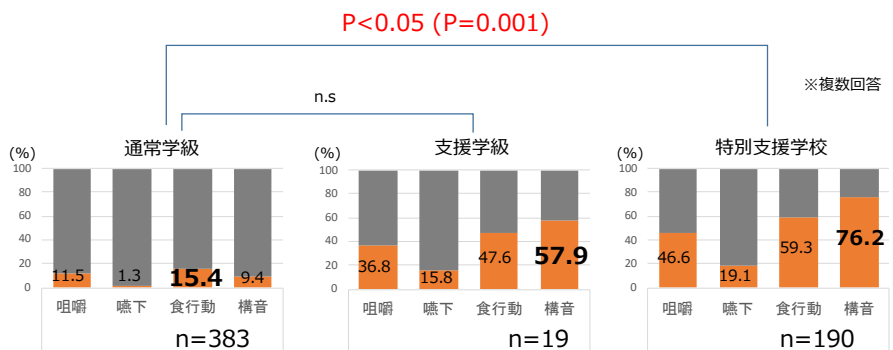
n=192  
複数回答



### ⑤特別支援教育を受けている者における口腔機能の心配事

通学先別に口腔機能の心配事を検討したところ、支援学級や特別支援学級で心配事が多い結果であり、通常学級と特別支援学校では、心配事の傾向が異なっていた。

## 通学先別の口腔機能の心配ごと x<sup>2</sup>検定



合計 592 名

通常学級と特別支援学校では、心配事の傾向が違うことが確認できた

### ⑥通常学級に通学している者の困りごと

また、通常学級における困りごとの上位2項目を示す。咀嚼においては「歯並びやかみ合わせが悪くて噛めない」、「咀嚼してる時間が短すぎる」、嚥下においては「むせる」、「飲み込むときに舌が出る」、食行動においては、「食事の姿勢」「食事のマナー」、構音では、「発音や話し方が気になる」、「普段から口を開けている」と回答する者が多かった。

## 通常学級の困りごと

|   |   |
|---|---|
| <p><b>咀嚼</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯並びやかみ合わせが悪くて噛めない (n=20)</li> <li>・ 咀嚼している時間が短すぎる (n=11)</li> </ul> | <p><b>嚥下</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ むせる (n=2)</li> <li>・ 飲み込むときに舌が出る (n=2)</li> </ul>           |
| <p><b>食行動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事の姿勢 (n=22)</li> <li>・ 食事のマナー (n=19)</li> </ul>                   | <p><b>構音</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発音や話し方が気になる (n=15)</li> <li>・ 普段から口を開けている (n=10)</li> </ul> |

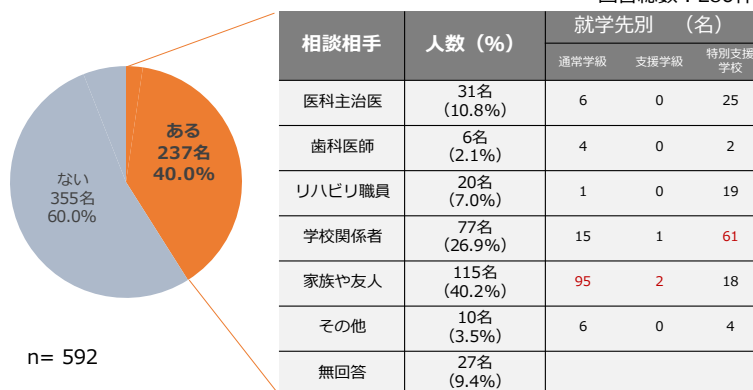
### ⑦口腔機能に関する相談先について

口腔機能の心配事に対する相談先があるかの質問では、あると回答した者が 237 名、40.0%であった。相談先がある者の中で、その相談先は家族や友人が 115 名、40.2%と最も多かった（重複あり）。通学先別では、通常学級と支援学級で、主に家族や友人に相談しており、特別支援学校では、学校関係者に相談することが多い結果となった。また、歯科医師に相談している者は全体で 6 名、2.1%しかおらず、最も少ない結果であった（重複あり）。

## 口腔機能の心配事に対する相談先があるか

※複数回答

回答総数：286件



## 4) 考察

### (1) 出生から離乳完了期における食の問題（哺乳期から離乳完了期群）

対象者の背景において、健康上の問題により継続して医師の治療を受けている者は 15% みられたが、発達障害や摂食嚥下障害の原疾患となる疾患は回答されなかった。そのため、基本的には摂食嚥下機能に問題を有さない子どもについての結果と推測された。

子どもの生活リズムについては、9 割以上が 7 時台までに起床しており、9 割以上が 21 時台までに就寝していた。しかし割合は少ないものの、就寝時間が 22 時以降と遅い場合、子どもが朝食を食べていない傾向にあり、保護者の生活リズムが子どもの食に影響を与えている可能性がうかがわれた。

排便回数が週に 3~4 回や、1~2 回と極端に少ない児が一定数みられた。食欲や睡眠への影響があるか検討したが、本対象者において関連性はみられなかった。

与えている乳汁は、混合乳が最も多く、次いで母乳のみであった。母乳は子どもにとっても母親にとっても最高の栄養であるが、母親自身の体調や各家庭の背景により、そのみで授乳を行えるケースばかりではないことがうかがわれる。離乳食を開始する時期は、5 か月が最も多く、次いで 6 か月であった。平成 29 年（2017 年）度に行われた乳幼児栄養調査では、6 か月で開始する者が最も多いという結果であったが、本調査はそこから 4 年が経過しており、傾向が変わってきている可能性もある。2019 年に厚生労働省から発出された授乳・離乳の支援ガイドにおいて、離乳開始の目安が月齢だけではなく、哺乳反射の消失や、子どもの首すわりやお座りなどの体の発達を目安にすることが示されたことが、浸透してきている可能性がある。

哺乳で心配なことがある者は 11% であり、その内容は、哺乳時間が短すぎる、が多かった。これは哺乳力の弱さか、あるいは母乳の場合であれば母乳の出方が影響している可能性があり、本調査だけでは考察は難しい。しかしいずれにしろ子どもの栄養摂取に関わる部分であり、心配事に上がってくるものと考えられる。

今回の調査では、哺乳、離乳食をはじめ、子どもの問題を感じている者は全体から見ると少ない傾向であったが、一方で保護者自身が感じる負担感の訴えの割合の方が多く、子どもが低年齢であるほど保護者支援が必要であることがうかがわれる。

口腔過敏を疑わせる症状が認められた場合、離乳食に対する心配事が多くなる傾向であった。口腔過敏があると、食物や食器の触感が苦手となり、食が進まなくなることが推測される。また、感覚過敏により顔の清拭や歯磨きにも抵抗を示すため、日々の育児負担にも直結する。

本調査の対象となった 0~1 歳半の子どもの保護者は、相談先を確保できている場合が多かったが、孤立している保護者も一定数存在すると思われる。本調査では表面に出てこなか

った課題を明らかにし、適切な支援に繋げていく取り組みが必要である。

## (2) 離乳完了後から就学前における食の問題（離乳完了後から就学前群）

本対象者において、日中の生活は保育所に通っている者が6割近くを占め、家庭保育は2名にすぎなかった。離乳完了後の年代においては、ほとんどの子どもが外部での集団生活を体験していることがうかがわれる。発達と身体に既往歴がある者は、離乳完了前と比べて多くなり、発達障害が多かった。また、健康上の問題として何らかのアレルギーを有している者が多かった。生活リズムについては、離乳完了前と同様に7時台までに起床している者が多かったが、22時以降に就寝する者が3割近くに上り、年齢が進むと幼児でありながらも就寝時間が遅くなる傾向がみられた。睡眠時間がやや不足している、不足しているが3割を超え、睡眠自体にも問題を有する項目への回答がそれぞれ1割前後みられた。最も多かったのは、なかなか起きないの17.1%であり、入眠時間が遅くなっていることと関連がある可能性がうかがわれた。

歯磨きの回数は1日2回が最も多く、次いで1回であった。3食食事をしている者が多いと思われるが、特に昼の時間は保育所等、外部での環境に左右されるため、昼食時の歯磨きについて施設で徹底されることが望ましい。

食形態は、普通食を食べている者が9割を超えていた一方で、離乳食形態の者もみられた。離乳完了後の年齢の場合、多くは完了食または普通食を摂取できる摂食機能を有しているため、それ以外の者では摂食機能発達になんらかの遅れや障害がある可能性を示している。離乳食の開始時期は、6カ月からが最も多く、離乳完了前の対象者と同様の傾向であった。

朝食の摂取について、起床から朝食時間まで30分以上余裕のある者は1割にも満たず、食欲の有無と関係があると考えられた。食事時間は朝食が最も時間が短く、忙しい朝は余裕が無い食生活であることがうかがわれた。一方、昼食、夕食は比較的時間をかけて食事をしているようであった。食事を残すことがよくある、ときどきあるを合わせて7割弱みられ、また欠食については、よく欠食する、ときどき欠食するが2割みられた。欠食する者の中で、1日に2食以上欠食する者が約3%も存在することは、この時期の子どもの栄養、成長にとって大きな問題である。また排便頻度についても、週1~2回という者が約5%おり、食欲や活動への影響が懸念される。

心身の不調について今回の回答は、対象者が低年齢であるため自分自身が感じている不調であるかは正確に確認することができない。目に見えて明らかな項目以外は保護者による観察や推察によるが、保護者が子育てをしていく中での心配事として捉えているものである。その中では、睡眠やアレルギー、感覚の問題をうかがわせるものが多かった。

口腔機能について、心配なことがある保護者は、7割近く認められた。咀嚼については、咀嚼時間が短すぎるが突出して多く、これはいいかえれば「噛んでいない」「丸のみ」「早食

い」を示していると考えられる。また嚥下については「むせる」が多かった。ほとんどの対象者は摂食嚥下障害ではなかったにもかかわらずこの項目が多く出てきたことは、誤嚥を意味するムセではなく、早食い、丸のみや、注意散漫な食行動の結果、むせが多かった可能性がある。構音については、発音や話し方が気になること、言葉が出るのが遅いことについて、心配が多かった。離乳完了後から就学前の時期は構音機能の獲得期であり、まだ機能が完成していない場合も少なくない。そのような中で言葉の発達がどのようになされるのか、保護者が十分な情報を得られておらず、心配事に繋がっている可能性がある。食行動については、突出した項目では無く、複数の多くの項目が挙がっていた。最も多かったのは食べる量や回数が多すぎる、であり、食べ過ぎを心配しているようであった。しかしその次に多かったのは、食べる量や回数が少なすぎると拒食であり、子どもの食の問題としては、食べ過ぎと、小食の両極端に分かれている傾向がみられた。

健康上の問題により継続して医師の診察を受けている者を対象に口腔機能の心配事を検討したところ、全身状態の有無にかかわらず、口腔機能の中では、食行動の問題が最も多く心配事として挙げられていた。また、継続して医師の診察を受けている小児では、診察を受けていない小児に比べ、咀嚼について困っている保護者の割合が多い傾向が示された。心身になんらかの不調、遅れ、障害がある場合、咀嚼機能への影響が生じる可能性がうかがわれた。

### (3) 小学校入学から高校までの時期における食の問題（学童期群）

小学生以上では、回答者は基本的に本人であり家族と相談しながらでもよいとした。自信の言葉で伝える力が不十分であったり、記載が困難であったりするものも含まれていると推測されるが、おおむね自信の意志を表した結果と思われる。年齢分布は小学生から高校生まで多岐にわたっていたが、小学校低学年の割合がやや多かった。通学先において、特別支援学級や特別支援学校に通学している者が全体の 1/4 程度みられており、発達と身体の既往歴についても自閉スペクトラム症や ADHD、知的能力障害等、発達障害が多かった。また、アレルギーを有している者も多く、身体の不快症状や食の幅の広がりに影響を及ぼされている者が一定数いることがうかがわれる。

起床時間は 6 時台、7 時台が多く一般的と思われるが、就寝時間は遅くなっており、特に 23 時台や 24 時以降が少なからずみられた。睡眠時間が不足していると自覚している者も多く、また布団の中でスマホを使用している者も 1 割超認められ、年齢があがるにつれ生活リズムの乱れが生じていることがわかる。

食形態は年齢的にも普通食を摂取している者がほとんどであるが、ミルクや離乳食の継続、経管栄養の使用もあり、長期的に摂食嚥下障害が継続している者が一定数存在していた。朝食時の食欲については、乳幼児、未就学児と同様に、起床から朝食までの時間が短いと食欲がない様子がうかがわれた。欠食について、数は少ないものの 1 日に 2 食～3 食食べてい

ないとの回答もあり、成長期における食事量の少なさは大きな問題と考えられる。

食に関する困難感、箸の使い方が下手であるが最も多く、食具の使い方等、手と口の協調運動の発達の支援が必要と考えられる。また、さまざまな感覚の過敏さによる食の困難があることが回答されていた。

消化機能に関しては、毎日排便がない者も多く、食欲に影響しているかの検討が必要である。

心身の不調については、食に関する困難感の結果と同様に、箸や鉛筆の扱いが下手、手先が不器用、という回答が多かった。また、学習に困難があるが最も多く、こだわりが強いという回答も多かった。口腔に関しては、よく嚙まない、口が開きがち、歯並びが悪い、といった歯科に直接関係する訴えや、活舌が悪いという構音の問題についても多くあげられていた。子ども達自身の生活の中で、食の困難はもちろんであるが、それが痰族で起きているわけではなく、他の困りごとを抱えながらの様々な訴えであることに配慮する必要があると思われる。

通学先と口腔機能の関係について検討を行った結果について考察する。通常学級と特別支援学校では、口腔機能の心配事の傾向が異なっていた。通学先の違いや障害の有無にかかわらず、全体的に食行動や咀嚼についての困りごとが多い傾向であった。構音については、支援学級や支援学校でその割合が高く、言語聴覚士と協働することの必要性が示された。

口腔機能の困りごとについて、歯科を含めた専門職に相談する者の割合は少なかったことは、看過できない問題である。歯科が、小児の口腔機能の困りごとを支援するためには、歯科が食べる機能の専門家であることを広く国民に周知すること、そして食べる機能の主訴を拾い上げ適切に対応すること、そのためには口腔機能発達不全症や摂食機能療法が必要な小児に対し積極的に診療する体制を整えることが必要と考えられた。

## 学会発表

成田妙子, 田村文誉, 山田裕之, 田部絢子, 高橋 智, 田中祐子, 水上美樹, 菊谷武, P3-7 0歳から1歳半児の保護者における子どもの口腔機能発達に関する主観的評価, 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会抄録集, 日摂食嚥下リハ会誌;26(3)pS221-222 千葉, 2022

山田裕之, 田村文誉, 作田妙子, 水上美樹, 田中祐子, 磯田友子, 保母妃美子, 宮城航, 菊谷 武, P-33-12 1歳半から6歳児の口腔機能発達に関する保護者の主観的評価に関するアンケート, 第39回日本障害者歯科学会総会および学術大会プログラム抄録集, P129 岡山, 2022

駒形悠佳, 山田裕之, 田村文誉, 0-7 小学生から高校生の口腔機能に関する主観的評価, 第61回日本小児歯科学会総会抄録集, P116, 長崎, 2023



# 調査票

子どもの口腔機能の発達に関する保護者の主観的評価による調査  
～離乳完了前～

\* この調査に回答することに同意しますか。

1. はい

基本情報

① このアンケートの回答者はどなたですか

1. 母親                      2. 父親                      3. その他 (                      )

② お子さんの年齢                      歳                      か月

③ お子さんの性別                      1. 男                      2. 女                      3. その他 (                      )

④ お子さんは兄弟／姉妹がいらっしゃいますか

1. いる                      2. いない

⑤ お子さんは第一子ですか

1. はい                      2. いいえ

⑥ お子さんが現在通っているところを教えてください。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします (複数選択可)。

1. 保育所  
2. 幼稚園  
3. 認定こども園  
4. 特別支援学校幼稚部  
5. 家庭保育 (育児休業中を含む)  
6. その他 (                      )

⑦ お子さんは健康上の問題により継続して医師の治療を受けていますか

1. はい (その理由;                      )                      2. いいえ

⑧ これまでにかかった (かかっている) 病気や障害はありますか。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします (複数選択可)。





固形) 5. 普通食 (大人が食べているのと同じくらいの固さ)

6. 母乳や育児用ミルク 7. 経管栄養

⑰ 離乳食を開始している方にお伺いします。お子さんは朝食を食べますか。

1. はい 2. いいえ 3. まだ母乳や育児用ミルクのみ

⑱ ⑰で「1. はい」と答えた人に質問です。起床から朝食までの時間を教えてください

1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

⑲ ⑰で「はい」と答えた人に質問です。朝食時の食欲はありますか。

1. とてもある 2. ややある 3. ほとんどない 4. ない

⑳ 離乳食を開始している場合、お子さんの1回の食事にかかる時間はどれくらいですか。

朝食: 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

昼食: 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

夕食: 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

㉑ お子さんは食事を残すことはありますか。

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. ない

㉒ お子さんは欠食することがありますか。

1. よく欠食する 2. ときどき欠食する 3. 欠食しない

㉓ ㉒で1. よく欠食する、2. ときどき欠食すると答えた人に質問です。

欠食する食事は何ですか。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします  
す (複数選択可)

1. 朝食 2. 昼食 3. 夕食

㉔ お子さんのふだんの排便頻度はどれくらいですか。

1. 毎日する 2. 週5-6回くらいする 3. 週3-4回くらいする 4. 週1-2回くらいする 5. その他 ( ) 6. わからない

口腔機能について

㉕ 哺乳で心配なことはありますか?



- 14 同じ状況の指向（特定の食器・場所等）
- 15 特定の人以外の手作りを受付けない
- 16 特定の人以外の食事介助を受付けない
- 17 会食が苦手
- 18 食物で汚れることへの敏感さ
- 19 特徴的な食べ方がある
- 20 食事中の姿勢
- 21 咀嚼・嚥下が苦手
- 22 口から出す
- 23 丸飲み・流し込み
- 24 むせる
- 25 なかなか飲み込まない
- 26 水分をゴクゴク飲めない
- 27 食具（スプーンなど）がうまく使えない
- 28 手づかみで食べる
- 29 食べこぼす
- 30 食事マナー
- 31 遊び食べ
- 32 食器具を投げる・落とす・ひっくり返す
- 33 他の人の皿・食べ物に手を出す
- 34 食事中的落ち着きのなさ
- 35 食事中的離席・立ち歩き
- 36 医師や摂食の専門家による食事に関する制限・指導を受けている
- 37 その他（ )

②⑨ その他に気になることはありますか？

- 1. ある
- 2. ない

③⑩ ②⑨で、ある、の場合、それはどのような理由ですか。あてはまるものすべてにチェック

をおねがいたします（複数選択可）

- i. 普段いつも口を開けている
- ii. 体重が増えない、やせている
- iii. 肥満傾向である
- iv. 口の周りや口の中を触られるととても嫌がる
- v. その他（ )

③① その他、口腔機能についてなにかございましたらお書きください。

発達支援に関する項目

③② お子さんはどうしても「食べられない」のに、周囲に「わがまま」「好き嫌い」で「食べない」と言われたりして困ったことはありますか。

1. ある 2. ない

③③ お子さんの食事に関して、保護者として苦慮していることがあれば教えてください。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします (複数選択可)。

- 1 家族の食事と分けて献立を考えたり、作ったりしなければならず大変だ。
- 2 本調査対象の子どもは外食に連れて行きにくい (連れていきたくない)。
- 3 特定の人以外が作ったものを食べないので、食事作りを別の人 (父親等) に代行してもらえない。
- 4 特定の人以外の食事介助を受け付けないので、食事介助を別の人 (父親等) に代行してもらえない。
- 5 食事の準備をして食べさせることまでで疲労困憊してしまう。
- 6 もともと料理が苦手なため、作りたくない。
- 7 食に困難のある子どもの食事をどのようにしたらよいかわからない。
- 8 せっかく作ったものをいつも食べてもらえず、自信や意欲を失う。
- 9 もう食事を作ることに時間や手間をかけることをやめた (やめたい)。
- 10 工夫しても食べてくれないので、食べるものだけ与えるしかない。
- 11 外出時に子どもの食事を任せられる人がいない。
- 12 子どもの食に関する相談にのってくれる人がいない。
- 13 子どもの食に関して家族の理解が得にくい。
- 14 子どもの食に関して家族の協力が得にくい。
- 15 子どもの食に関して家族から責められる。
- 16 食事介助の時などに怒鳴ったり、叱責してしまったことがある。
- 17 食事介助の時などに手をあげてしまったことがある。
- 18 子どもの食事の世話が育児ストレスになっている。
- 19 子どもの食事の世話を考えると子どもがかわいく思えないことがある。
- 20 その他 ( )

③④ お子さんの食の困りごとについて相談できる人・機関はありますか。

1. ある (具体的に: ) 2. ない











⑰ お子さんは朝食を食べますか。

1. はい 2. いいえ

⑱ ⑰で「1. はい」と答えた人に質問です。起床から朝食までの時間を教えてください

1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

⑲ ⑰で「はい」と答えた人に質問です。朝食時の食欲はありますか。

1. とてもある 2. ややある 3. ほとんどない 4. ない

⑳ お子さんの1回の食事にかかる時間はどれくらいですか。

朝食： 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

昼食： 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

夕食： 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

㉑ お子さんは食事を残すことはありますか。

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. ない

㉒ お子さんは欠食することがありますか。

1. よく欠食する 2. ときどき欠食する 3. 欠食しない

㉓ ㉒で1. よく欠食する、2. ときどき欠食すると答えた人に質問です。欠食する食事は何ですか。あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

1. 朝食 2. 昼食 3. 夕食

㉔ お子さんのふだんの排便頻度はどれくらいですか。

1. 毎日する 2. 週5-6回くらいする 3. 週3-4回くらいする 4. 週1-2回くらいする 5. その他（ ） 6. わからない

心身の不調に関するチェックリスト

㉕現在のお子さんの様子について、あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）。（低年齢で該当しない項目もありますので、そこは無視してください）

1 環境の変化が苦手

2 突然の音には非常にストレスを感じる

- 3 初めてのことや複雑なことになると思考が止まってしまう
- 4 不安・緊張・ストレスが強い
- 5 気にしすぎる傾向がある
- 6 こだわりが強い
- 7 何もやる気が起きない
- 8 ストレスが溜まっている
- 9 爪噛み
- 10 パニック・かんしゃく
- 11 イライラしている
- 12 汚れることが嫌い
- 13 集中力に欠ける・気が散りやすい
- 14 あきらめが早い
- 15 イメージすることが苦手
- 16 学習に困難がある
- 17 感覚の過敏
- 18 感覚の低反応（鈍麻・感じにくい）
- 19 身体の疲れやすさ
- 20 体がだるくなりやすい
- 21 不定愁訴（なんとなく体調が悪い）
- 22 風邪をひきやすい
- 23 肩こり・頭痛・腰痛
- 24 身体が痛い
- 25 よく頭が痛くなる
- 26 よくめまいがする
- 27 午前中ぼんやりする、調子が悪い
- 28 貧血気味である
- 29 発熱しやすい
- 30 吐き気・嘔吐が多い
- 31 肥満
- 32 やせ
- 33 冷え性・寒がり
- 34 手足がむくみやすい
- 35 顔に吹き出物が出たり肌が荒れることがよくある
- 36 生理痛が重い
- 37 乗り物酔いしやすい
- 38 中耳炎・耳下腺炎になりやすい

- 39 喘息・気道過敏・鼻炎・各種アレルギー
- 40 皮膚がかゆい・痛い・腫れる・湿疹
- 41 口内炎・歯茎の腫れ
- 42 歯並びが悪い
- 43 舌や頬など口腔内を噛みやすい
- 44 口が開きがち
- 45 滑舌が悪い
- 46 よく噛まない、丸のみ
- 47 虫歯になりやすい
- 48 ゲップが多い・しにくい
- 49 腹痛・下痢が多い
- 50 腹痛・下痢のため乗り物移動をためらう
- 51 トイレに間に合わないことがある
- 52 おなかが張った感じがする
- 53 おならが少ない・多い
- 54 便の回数が少ない・便秘
- 55 おなかに便が充満している感じがある
- 56 排便時に肛門の痛みがある
- 57 便の量が少ない
- 58 便が硬くて出にくい
- 59 下痢または水様便がある
- 60 外食などの直後に下痢になりやすい
- 611 か月あたり3回以上の腹痛またはおなかの不快感がおきる
- 62 排便によって腹痛やおなかの不快感は和らぐ
- 63 おなかが痛かったり不快なとき、便の形（外観）が硬くなったり水のようになる
- 64 就寝時間が遅い
- 65 夜なかなか寝付けない
- 66 中途覚醒が多い・よく眠れない
- 67 歯ぎしり・いびき・寝言・寝返りが多い
- 68 朝なかなか起きられない
- 69 睡眠不足
- 70 同年齢の人より睡眠時間が長い（昼寝含む）
- 71 睡眠リズムが安定しない
- 72 つまづいて転びやすい、ぶつかりやすい
- 73 転んでも手が出ない
- 74 スキップやケンケンが苦手

- 75 じっとしていることが苦手
- 76 姿勢が崩れがち
- 77 左右の手足が異なる動きは難しい
- 78 箸や鉛筆の扱いが下手
- 79 手先が不器用
- 80 運動や運動遊びが苦手
- 81 運動不足

口腔機能について

②6 咀嚼で心配なことはありますか？

- 1. ある
- 2. ない

②7 ②6で 1. ある、の場合、それはどのような理由ですか。あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

- i. 歯が生えるのが遅い
- ii. 歯並びやかみ合わせが悪くてよくかめない
- iii. むし歯が痛くてかめない
- iv. 強くかみしめられない
- v. 咀嚼している時間が長すぎる
- vi. 咀嚼している時間が短すぎる
- vii. どちらか片側の歯でばかり噛んでいる

②8 嚥下（飲み込み方）で心配なことはありますか？

- 1. ある
- 2. ない

②9 ②8で 1. ある、の場合、それはどのような理由ですか。あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

- i. 飲み込む時に舌が出る
- ii. 哺乳しているような飲み方をしている
- iii. むせる

③0 食べ方（食行動）で心配なことはありますか？

- 1. ある
- 2. ない



③① ③②で、ある、の場合、それはどのような理由ですか。あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

- i. 食べる量や回数が多すぎる
- ii. 食べる量や回数が少なすぎる
- iii. 食べる量や回数にムラがある
- iv. その他、下記にあてはまるものがあれば教えてください。
  - 1 少食
  - 2 拒食
  - 3 過食
  - 4 欠食（朝食等）が多い
  - 5 食べられないものが多い
  - 6 食欲や食事量にムラがある
  - 7 食事に時間がかかる
  - 8 食事に対する意欲がない
  - 9 満腹感・空腹感を感じにくい
  - 10 偏食
  - 11 特定の味の好み
  - 12 食感による食事の偏り
  - 13 見た目による食事の偏り
  - 14 同じ状況の指向（特定の食器・場所等）
  - 15 特定の人以外の手作りを受付けない
  - 16 特定の人以外の食事介助を受付けない
  - 17 会食が苦手
  - 18 食物で汚れることへの敏感さ
  - 19 特徴的な食べ方がある
  - 20 食事中の姿勢
  - 21 咀嚼・嚥下が苦手
  - 22 口から出す
  - 23 丸飲み・流し込み
  - 24 むせる
  - 25 なかなか飲み込まない
  - 26 水分をゴクゴク飲めない
  - 27 食具（箸など）がうまく使えない
  - 28 手づかみで食べる
  - 29 食べこぼす
  - 30 食事マナー

- 31 遊び食べ
- 32 食器具を投げる・落とす・ひっくり返す
- 33 他の人の皿・食べ物に手を出す
- 34 食事時の落ち着きのなさ
- 35 食事時の離席・立ち歩き
- 36 医師による食事に関する制限・指導を受けている
- 37 その他 ( )

③② 話すことで心配なことはありますか？

- 1. ある
- 2. ない

③③ ③②で、1. ある、の場合、それはどのような理由ですか？あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

- i. 言葉が出るのが遅い
- ii. 発音や話し方が気になる
- iii. 普段から口を開けている
- iv. 指しゃぶりが続いている
- v. 爪をかむなどの癖がある
- vi. 舌の裏の帯が短い（舌小帯）

③④ その他に気になることはありますか？

- 1. ある
- 2. ない

③⑤ ③④で、ある、の場合、それはどのような理由ですか。あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

- i. 体重が増えない、やせている
- ii. 肥満傾向である
- iii. 扁桃腺が大きい
- iv. 寝ているときのいびきがひどい
- v. その他 ( )

③⑥ その他、口腔機能についてなにかございましたらお書きください。

発達支援に関する項目

③⑦ お子さんはどうしても「食べられない」のに、周囲に「わがまま」「好き嫌い」で「食べない」と言われたりして困ったことはありますか。

1. ある 2. ない

③⑧ お子さんの食事に関して、保護者として苦慮していることがあれば教えてください。あてはまるものすべてにチェック☑をおねがいたします（複数選択可）

- 1 家族の食事と分けて献立を考えたり、作ったりしなければならず大変だ。
- 2 本調査対象の子どもは外食に連れて行きにくい（連れていきたくない）。
- 3 特定の人以外が作ったものを食べないので、食事作りを別の人（父親等）に代行してもらえない。
- 4 特定の人以外の食事介助を受け付けないので、食事介助を別の人（父親等）に代行してもらえない。
- 5 食事の準備をして食べさせることまでで疲労困憊してしまう。
- 6 もともと料理が苦手なため、作りたくない。
- 7 食に困難のある子どもの食事をどのようにしたらよいかわからない。
- 8 せっかく作ったものをいつも食べてもらえず、自信や意欲を失う。
- 9 もう食事を作ることに時間や手間をかけることをやめた（やめたい）。
- 10 工夫しても食べてくれないので、食べるものだけ与えるしかない。
- 11 外出時に子どもの食事を任せられる人がいない。
- 12 子どもの食に関する相談にのってくれる人がいない。
- 13 子どもの食に関して家族の理解が得にくい。
- 14 子どもの食に関して家族の協力が得にくい。
- 15 子どもの食に関して家族から責められる。
- 16 食事介助の時などに怒鳴ったり、叱責してしまったことがある。
- 17 食事介助の時などに手をあげてしまったことがある。
- 18 子どもの食事の世話が育児ストレスになっている。
- 19 子どもの食事の世話を考えると子どもがかわいく思えないことがある。
- 20 その他（ ）

③⑨ お子さんの食の困りごとについて相談できる人・機関はありますか。

1. ある（具体的に： ） 2. ②ない

④⑩ お子さんの食の困りごとについて講演会や研修などに参加したことはありますか。

1. ある（具体的に： ） 2. ない

④⑪ お子さんの「食べることにする困りごと」について専門職に相談したいですか。

1. 相談したい（具体的に： ） 2. 特に  
必要ない

④② 「食べることにする困りごと」について幼稚園や保育所等の先生に知っておいてほしい、理解してほしい・対応してほしいことはありますか。

1. ある（具体的に： ） 2. ない

④③ 「食べることにする困りごと」について幼稚園や保育所等の栄養士や調理員に知っておいてほしい、理解してほしい・対応してほしいことはありますか。

1. ある（具体的に： ） 2. ない

1. ↓

2.

④④ お子さんに見られる食に関する困りごとや様子は、ご家族のどなたかにも共通した傾向だと思えますか。

1. 非常に思う 2. 少し思う 3. 思わない 4. わからない

④⑤ 質問は以上です。その他、子どもの口腔機能や食に関わる困難や支援ニーズについて何かございましたらご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

子どもの口腔機能の発達に関する主観的評価による調査  
～小学生・中学生・高校生対象～

\* この調査に回答することに同意しますか。

1. はい

☆質問にある「(あなた)」とは、お子さん自身が回答する場合を想定して、お子さんに聞いています。

基本情報

① このアンケートの回答者はどなたですか

1. 子ども本人            2. 母親            3. 父親            4. その他 (            )

② お子さん(あなた)の年齢            歳            か月

③ お子さん(あなた)の性別            1. 男            2. 女            3. その他 (            )

④ お子さん(あなた)は兄弟/姉妹がいらっしゃいますか

1. いる            2. いない

⑤ お子さん(あなた)は第一子ですか

1. はい            2. いいえ

⑥ 現在、お子さん(あなた)が在籍しているところを教えてください。

7. 小学校の通常学級  
8. 小学校の通常学級で通級にも通っている  
9. 小学校の特別支援学級  
10. 中学校の通常学級  
11. 中学校の通常学級で通級にも通っている  
12. 中学校の特別支援学級  
13. 高校の通常学級  
14. 高校の通常学級で通級にも通っている  
15. 特別支援学校小学部  
16. 特別支援学校中学部  
17. 特別支援学校高等部

18. その他 ( )

⑦ お子さん（あなた）は健康上の問題により継続して医師の治療を受けていますか

1. はい（その理由； ） 2. いいえ

⑧ これまでにかかった（かかっている）病気や障害はありますか。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします（複数選択可）。

30. 病気や障害はない

31. アトピー性皮膚炎

32. 気管支ぜんそく

33. 食物等のアレルギー

34. 花粉症

35. 肥満症

36. 心身症

37. 反復性腹痛

38. 過敏性腸症候群

39. 逆流性食道炎

40. 精神疾患（統合失調症・パニック障害不安症など）

41. 摂食障害

42. 腎疾患（急性腎炎症候群・ネフローゼ症候群など）

43. てんかん

44. 筋ジストロフィー

45. 悪性新生物・がん（白血病・悪性リンパ腫など）

46. 心疾患（心室中隔欠損・不整脈など）

47. 糖尿病

48. 整形外科的疾患（二分脊椎・脊椎側弯症など）

49. ASD（自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害）

50. ADHD（注意欠陥多動性障害）

51. LD（学習障害）

52. その他の発達障害（トゥレット症候群、吃音症、発達性協調運動障害など）

53. 知的能力障害

54. 肢体不自由（脳性麻痺など）

55. 視覚障害

56. 聴覚障害

57. 精神障害

その他 ( )

生活リズム・生活習慣について

⑨ お子さん（あなた）はふだん、何時に起きて何時に寝ますか。平均的な時間を記入してください。（新型コロナウイルス感染症による学校の休校等の措置がなされていない、「いつもの生活」を想定しています）

起床： 平日（ 時 分） 休日（ 時 分）

就寝： 平日（ 時 分） 休日（ 時 分）

⑩ 1週間で考えてみて、現在のお子さん（あなた）の寝る時間は十分だと思いますか。

1. 十分だと思う 2. やや十分だと思う 3. やや不足している 4. 不足している

⑪ 幼児期・小学校期と現在の生活を振り返り、お子さん（あなた）の睡眠について、あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします（複数選択可）。

幼児期（中学生以上は小学校期も含めて） / 現在

1. 何かに集中していると寝ることさえ忘れている
2. 入眠までにとっても時間がかかる
3. 布団に入ってから3時間以上は寝付けない
4. いったん眠るとなかなか起きられない
5. 夜中に何度も目が覚める
6. フラッシュバックで悪夢を見ることがある
7. 起きたとき、ほとんど眠れていない感じがする
8. 気分の落ち込みがひどくて起き上がるのもつらい
9. 起きたときも疲れはとれず、体がともしんどい
10. 朝起きてから起動するまでにとっても時間がかかる
11. 睡眠時間が不規則で頻回にずれる
12. 睡眠不足のときには体調が悪い
13. 日中でもひたすら眠りたいと思う時がよくある
14. 入眠前や起床後、布団の中でもスマホを使っている
15. その他（ ）

⑫ お子さん（あなた）の1日の歯磨きの回数を教えてください

1. （ ）回 2. なし

⑬ 乳児期のことについてお伺いします。わかる範囲でお答えください。哺乳期間を教えてください。

\_\_\_\_\_ か月 ~ 歳 \_\_\_\_\_ か月 ・覚えていない ( )

⑭ 哺乳での乳汁の種類を教えてください。

1. 母乳 2. 育児用ミルク (人工乳) 3. 混合 4. 覚えていない

⑮ 離乳食の期間を教えてください。

\_\_\_\_\_ か月 ~ 歳 \_\_\_\_\_ か月 ・覚えていない ( )

⑯ 現在の食事の形態を教えてください。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいいたします (複数選択可)

1. 初期食 2. 中期食 3. 後期食 4. 完了食～幼児食 5. 普通食  
6. 母乳や育児用ミルク 7. 経管栄養

⑰ お子さん (あなた) は朝食を食べますか。

1. はい 2. いいえ

⑱ ⑰で「1. はい」と答えた人に質問です。起床から朝食までの時間を教えてください

1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

⑲ ⑰で「はい」と答えた人に質問です。朝食時の食欲はありますか。

1. とてもある 2. ややある 3. ほとんどない 4. ない

⑳ お子さん (あなた) の1回の食事にかかる時間はどれくらいですか。

朝食: 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

昼食: 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

夕食: 1. 15分未満 2. 15-30分 3. 30-45分 4. 45-60分 5. 60分以上

㉑ ⑰で「いいえ」と答えた人に質問です。朝食を食べない理由は何ですか。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいいたします (複数選択可)

1. 時間がない 2. 朝食を食べるより寝ていたい 3. 食欲がわからない 4. 朝食が用意されていない 5. 朝食の準備が面倒 6. 以前から食べる習慣がない  
7. ダイエットのため 8. その他 ( )

㉒ お子さん (あなた) は食事を残すことはありますか。

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. ない



⑳ ㉒で 1. よくある、2. ときどきある、と答えた人に質問です。どの食事を残すことが多いですか。

1. 朝食 2. 昼食 3. 夕食 4. 夜食 5. その他( )

㉓ お子さん(あなた)は欠食することがありますか。

1. よく欠食する 2. ときどき欠食する 3. 欠食しない

㉔ ㉓で 1. よく欠食する、2. ときどき欠食すると答えた人に質問です。

欠食する食事は何ですか。(複数選択可)

1. 朝食 2. 昼食 3. 夕食

㉕ 幼児期・小学校期と現在の生活を振り返り、お子さん(あなた)の食について、あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします(複数選択可)。

幼児期(中学生以上は小学校期も含めて) / 現在

1. 人の輪の中でどのようにふるまえばいいかわからないため会食は恐ろしい
2. 大人数の食事は音や匂いなどの情報があふれて辛い
3. 誰かに見られながら食べることは苦である
4. いつもと違う順序、違う時間、違う場所で食べることは苦痛である
5. パン屋、魚売り場など匂いの強い場所では吐き気をもよおす
6. 気が付いたらひどくおなかがすいていることがある
7. 食欲の差が激しく、食欲のない時は全然食わず、ある時はとことん食べる
8. ストレスを感じると空腹を全く感じなくなる
9. 見るだけで気持ち悪かったり怖い食べ物がある
10. においの強い食品は食べられない
11. 自分が予想していた味と違う味だと食べられない
12. 魚の小骨は全部外さないといわずのどに引っかかっているように感じる
13. 味が混ざるのが嫌なのでおかずをすべて食べてからご飯に移るような食べ方をしてしまう
14. 異常にのどが渇き一日に何リットルも飲み物を飲む
15. 好きになったメニューや食べ物にはかなり固執する
16. 箸の使い方が下手である

㉖ お子さん(あなた)はお腹が痛くなったり下痢になるのを気にして、食べないようにすることがありますか。

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. まったくない

⑳ お子さん（あなた）のふだんの排便頻度はどれくらいですか。

1. 毎日する 2. 週5-6回くらいする 3. 週3-4回くらいする 4. 週1-2回くらいする 5. その他（ ） 6. わからない

### 心身の不調に関するチェックリスト

㉑ 幼児期・小学校期を振り返り、お子さん（あなた）の様子について、あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします（複数選択可）

幼児期（中学生以上は小学校期も含めて） / 現在

- 1 環境の変化が苦手
- 2 突然の音には非常にストレスを感じる
- 3 初めてのことや複雑なことになると思考が止まってしまう
- 4 不安・緊張・ストレスが強い
- 5 気にしすぎる傾向がある
- 6 こだわりが強い
- 7 何もやる気が起きない
- 8 ストレスが溜まっている
- 9 爪噛み
- 10 パニック・かんしゃく
- 11 イライラしている
- 12 汚れることが嫌い
- 13 集中力に欠ける・気が散りやすい
- 14 あきらめが早い
- 15 イメージすることが苦手
- 16 学習に困難がある
- 17 感覚の過敏
- 18 感覚の低反応（鈍麻・感じにくい）
- 19 身体の疲れやすさ
- 20 体がだるくなりやすい
- 21 不定愁訴（なんとなく体調が悪い）
- 22 風邪をひきやすい
- 23 肩こり・頭痛・腰痛
- 24 身体が痛い
- 25 よく頭が痛くなる
- 26 よくめまいがする

- 27 午前中ぼんやりする、調子が悪い
- 28 貧血気味である
- 29 発熱しやすい
- 30 吐き気・嘔吐が多い
- 31 肥満
- 32 やせ
- 33 冷え性・寒がり
- 34 手足がむくみやすい
- 35 顔に吹き出物が出たり肌が荒れることがよくある
- 36 生理痛が重い
- 37 乗り物酔いしやすい
- 38 中耳炎・耳下腺炎になりやすい
- 39 喘息・気道過敏・鼻炎・各種アレルギー
- 40 皮膚がかゆい・痛い・腫れる・湿疹
- 41 口内炎・歯茎の腫れ
- 42 歯並びが悪い
- 43 舌や頬など口腔内を噛みやすい
- 44 口が開きがち
- 45 滑舌が悪い
- 46 よく噛まない、丸のみ
- 47 虫歯になりやすい
- 48 ゲップが多い・しにくい
- 49 腹痛・下痢が多い
- 50 腹痛・下痢のため乗り物移動をためらう
- 51 トイレに間に合わないことがある
- 52 おなかが張った感じがする
- 53 おならが少ない・多い
- 54 便の回数が少ない・便秘
- 55 おなかに便が充満している感じがある
- 56 排便時に肛門の痛みがある
- 57 便の量が少ない
- 58 便が硬くて出にくい
- 59 下痢または水様便がある
- 60 外食などの直後に下痢になりやすい
- 611 か月あたり3回以上の腹痛またはおなかの不快感がおきる
- 62 排便によって腹痛やおなかの不快感は和らぐ







- i. 体重が増えない
- ii. 肥満傾向である
- iii. 扁桃腺が大きい
- iv. 寝ているときのいびきがひどい
- v. その他 ( )

④⑩ その他、口腔機能についてなにかございましたらお書きください。

#### 発達支援に関する項目

④⑪ お子さん（あなた）はどうしても「食べられない」のに、周囲に「わがまま」「好き嫌い」で「食べない」と言われたりして困ったことはありますか。

- 1. ある
- 2. ない

④⑫ お子さん（あなた）の食事に関して、保護者として苦慮していることがあれば教えてください。あてはまるものすべてにチェック  をおねがいたします（複数選択可）

- 1 家族の食事と分けて献立を考えたり、作ったりしなければならず大変だ。
- 2 本調査対象の子どもは外食に連れて行きにくい（連れていきたくない）。
- 3 特定の人以外が作ったものを食べないので、食事作りを別の人（父親等）に代行してもらえない。
- 4 特定の人以外の食事介助を受け付けないので、食事介助を別の人（父親等）に代行してもらえない。
- 5 食事の準備をして食べさせることまでで疲労困憊してしまう。
- 6 もともと料理が苦手なため、作りたくない。
- 7 食に困難のある子どもの食事をどのようにしたらよいかわからない。
- 8 せっかく作ったものをいつも食べてもらえず、自信や意欲を失う。
- 9 もう食事を作ることに時間や手間をかけることをやめた（やめたい）。
- 10 工夫しても食べてくれないので、食べるものだけ与えるしかない。
- 11 外出時に子どもの食事を任せられる人がいない。
- 12 子どもの食に関する相談にのってくれる人がいない。
- 13 子どもの食に関して家族の理解が得にくい。
- 14 子どもの食に関して家族の協力が得にくい。
- 15 子どもの食に関して家族から責められる。
- 16 食事介助の時などに怒鳴ったり、叱責してしまったことがある。
- 17 食事介助の時などに手をあげてしまったことがある。
- 18 子どもの食事の世話が育児ストレスになっている。

19 子どもの食事の世話を考えると子どもがかわいく思えないことがある。

20 その他 ( )

④③ お子さん（あなた）の食の困りごとについて相談できる人・機関はありますか。

2. ある（具体的に： ) 2. ②ない

④④ お子さん（あなた）の食の困りごとについて講演会や研修などに参加したことはありますか。

2. ある（具体的に： ) 2. ない

④⑤ お子さん（あなた）の「食べることに関する困りごと」について専門職に相談したいですか。

1. 相談したい（具体的に： ) 2. 特に必要ない

46 「食べることに関する困りごと」について 学校等の先生 に知っておいてほしい、理解してほしい・対応してほしいことはありますか。

1. ある（具体的に： ) 2. ない

④⑦ 「食べることに関する困りごと」について 学校等の栄養士や調理員 に知っておいてほしい、理解してほしい・対応してほしいことはありますか。

1. ある（具体的に： ) 2. ない

④⑧ お子さん（あなた）に見られる困りごとや様子は、ご家族のどなたかにも共通した傾向だと思いませんか。

1. 非常に思う 2. 少し思う 3. 思わない 4. わからない

④⑨ 質問は以上です。その他、子どもの口腔機能や食に関わる困難や支援ニーズについて何かございましたらご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。